

I 先行的恵み＝真実、真理であられる神が、真実、真理の書、66巻の聖書を私達に下さった恵みを心から感謝しましょう。

II 「出来事」を語る事と出来事の真の意味を含む「真実」を見分けて語る事が非常に大切です。

1. 「真実を語りなさい」：25。「出来事」を語る事と「真実」を語る事は、同じ事とは限りません。目で見えた出来事の一面の事実を語っても、真実を伝えていない事があります。耳で聞いた出来事の一面の事実を語っても、真実を伝えていない事があります。※片方からの情報だけでは、真実ではない事が多くある。両方から聞いても、聞く私達の耳も完全ではない事を認めたい。私たち人間の目や耳は、罪や心のゆがみで完全ではない事を謙遜に認める事が必要なのです。※100人の集まりの真ん中で、ある出来事が起こったとします。全員が、同じ出来事を見たのです。しかし、その出来事の捉え方は、100人いれば、100通りの捉え方があるのです。一人一人の人生経験、今置かれている立場、性格や生育で身に着けた物事を見る目が違うのです。噂も、色々な人の感情、私見が加わり大きくなる。

2. 福音の「真理・真実」を語る事も、「起きた事実、出来事」を語る事と同じではありません。「イエスは、十字架で死んだ」「イエスは殺された」。これは、出来事、事実を語っただけです。しかし、福音の真理、真実は、もっと深いものです。「真実」には、出来事、事実の「真の意味」が含まれます→「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるためによりがえられたからです」ローマ4：25。「私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私達に対するご自身の愛を明らかにしておられます」5：8。「ご自身をお捨てになった」だけではなく、「私たちの罪のために」「私を愛し私のために」という深い意味のある「真実」。この歴史的事実、出来事の意味、神の御目的である「真実」を語る事が、福音（良き知らせ）を語るという事です。「主は十字架で死なれた」だけでは、福音ではない。「主が私達を愛し、私たちの罪の為に十字架で死んで下さった」→十字架の意味、目的が語られた「真実」、これこそが救いの福音！※聖書の価値。神が私達に聖書を下さらなかつたら、歴史、事実の真実、神の深いご計画は、決して分からなかった。真理、真実の書、出来事の意味を教えて下さる聖書を心から感謝します！

3. 私たちは、真実を確認することなく、自分の知っている狭い、片寄った「事実の認識」が、噂話となって駆け巡る事がないように気を付けたいものです。偽りを捨て、真実を語る事が出来ますように。

III 真実の正しい語り方

1. 「偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい」：25。本日のこの御言葉は、人間関係で最も大切な「信頼関係」を持つ事ができる基礎、土台となる御言葉です。私達は、いつも、「偽り、うそ」を言う人を信頼、信用する事は出来ません。逆に、私たちのほうが、いつも「偽り、うそ」を言うならば、人から信頼、信用を得る事は出来ません。私達は、真実（原語の意：真理、真相、本当、客観的な事実、見せかけではない真実・実際、誠実、忠実、腹藏なく語る、正直）を語り続ける時、信頼、信用を勝ち取る。この人は信頼できる人だと。私達は、真実、本当の事を正直に語ってくれる人を信頼して行く。信頼、信用を得るには、真実、誠実の積み重ねが必要である。一つの偽り、うそ、ごまかし、不正で、これまでの信頼、信用は、一瞬で無くなる事がある。

2. 愛もなく語るのではなく、神からいただく愛をもって真実を語る。
「愛がないなら、何の値うちもありません」Ⅰコリント13：2。
「むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し」エペソ4：15。
「もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい」ガラテヤ6：1。愛もなく、語られる言葉は、受け入れられにくく、人を建て上げません。愛をもって語られる真実な言葉は、受け入れ易く、人を建て上げます。私達は、お互い、相手の人に、自分に対して、愛と真実があると感じる時、心を開き易いのです。
3. 真実を語る「時」をわきまえる。
「すべての営みには時がある。…話をするのに時がある」伝道者の書3：1、7。
相手の状況、疲れ、余裕、聞く耳、個人的に落ち着いて話せる状況か等をわきまえる。
神に良く祈り、自分自身と相手の人の心を整えていただく。
「わたしには、あなたがたに話すことがたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます」ヨハネ16：12、13。
4. 公の場で語るべき事と個人的に語るべき事をわきまえる。互いに相手の人格、名誉を重んじる。他の人に言いふらすのではなく、当の本人に真実に語る。「もし、あなたの兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って、二人だけのところで指摘しなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです」マタイ18：15。
5. 意見と人格を区別する。真実に語り合い、意見が違ってても、人格を否定せず、主を間に置く交わりは、互いに愛し合い、互いの人格を重んじる、お互い神の目に高価で尊い存在と認め合うことができます。
「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」イザヤ43：4
6. 判決を下す前に必要な事。「私たちの律法では、まずその人から直接聞き、その人が何をしているのか知った上でなければ、判決を下さないのではないか」ヨハネ7：51。
「ふたりか三人の証言がなければ、受理してはいけません。…これらのことを偏見なしに守り、何事もかたよらないで行いなさい」Ⅰテモテ5：19、21

Ⅳ「私たちはからだ（主の体なる教会）の一部として互いにそれぞれのものだからです」4：25

1. 私達は、キリストの体の一部分として、互いにそれぞれのものです。主にあって一つのからだ、一体となっています。「大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだ（主の体なる教会）であり、ひとりひとり互いに器官なのです」ローマ12：5
2. 一体であるからだの部分は、互いに真実を語り合い互いにそれぞれのものとして支え合っています。目が前方に危険なものを見ると、脳に知らせ、それを足に知らせ危険から守られます。腐った物を口に入れた時、舌は脳に知らせ、危険から守られます。そのように、各器官は真実を語る事で協力し守られているのです。もし、教会の各器官が、互いに真実ではなく、偽りを語るなら、大変な混乱が生じます。教会の一致を保つ事は出来ないでしょう。
3. 私達は、キリストの体に結び合され、一つの体（主の教会）とされています。偽りを捨て、互いに愛をもって真実を語り合う時、混乱、危険から守られ、御霊の一致を保ち、成長し、かしらである主に、そして、互いに仕え合う体（主の教会）の各器官となれるのです。「愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善に親しみなさい。兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりもまさっていると思いなさい」ローマ12：9、10

祈り：私達が、偽り、うそ、だます事を捨て、愛をもって真実を語り続けることが出来ますように。